

公開シンポジウム

若手研究者の考える、震災後の未来

—— 学術に何ができるのか ——

3月11日の東日本大震災を経て、若手研究者は各々の立場から現場でいかに活動し、いかに思考したのか。学術に関係する者は何を反省し、何を力に前に進むべきか。これからの日本の復興や新生に向けて、学術にはいかなる貢献ができるのか。各分野の第一線で活躍する若手研究者が、震災後の日本の展望を視野に入れながら、学術の未来を積極的に討議する。

2011年6月26日(日) 13:00-18:00
日本学術会議 講堂

(東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5番出口)

13:00 開会挨拶

駒井章治 (奈良先端科学技術大学院大学
バイオサイエンス研究科・准教授)

セッション① 震災時、私たちはどう行動したか

13:10-13:40 「東北大での被災・原子核物理の研究者の貢献」

関口仁子 (東北大学大学院理学研究科・准教授)

13:40-14:10 「東日本大震災現地調査報告と防災工学」

高橋良和 (京都大学防災研究所・准教授)

14:10-14:40 「災害医学(仮)」

柳田素子 (京都大学 次世代研究者育成センター
「白眉プロジェクト」・特定准教授)

セッション② 学術知をどのように社会と共有するか

14:40-15:10 「震災後の科学知の情報発信」

横山広美 (東京大学大学院理学系研究科・准教授)

15:10-15:40 「「避難」と「混乱」—東日本大震災における

「津波被災」と「心理的被災」に関する社会心理学的分析」

関谷直也 (東洋大学社会学部・准教授)

15:40-15:50 休憩

セッション③ 未来への希望となる学術

15:50-16:20 「震災から3ヶ月半
東北大学のこれまでと今後」

住井英二郎 (東北大学大学院情報科学研究科・准教授)

16:20-16:50 「カタストロフィの哲学」

西山雄二 (首都大学東京人文科学研究科・准教授)

16:50-17:50 パネルディスカッション

18:00 閉会挨拶

司会：中村征樹 (大阪大学 大学教育実践センター・准教授)

主催：日本学術会議 若手アカデミー委員会 若手アカデミー活動検討分科会

参加費無料 事前の参加申込不要(先着300名様まで) プログラムの一部は調整中です

【問い合わせ先】日本学術会議事務局審議第一担当・山口 tel 03-3403-6289 (平日) fax 03-3403-1640 (夜間、土休日)